

令和7年度文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業実績報告

事業実施団体：瀬戸内市立美術館

事業の概要

事業名	せとうち猫めぐり事業－花房さくら木彫展関連事業－
委託費の契約額	2,000,000円
総入場者数	18,897人 【内訳：18,665人（展覧会入館者）、46人（高校生WS）、6人（中学生WS）、40人（招き猫絵付け）、65人（アーティストトーク）、75人（ナイトシアター）】
事業全体の概要	<p>瀬戸内市立美術館開館15周年記念特別展 花房さくら木彫展「猫、牛窓ニテ～星ヲモッテシュウゴウ！～」を開催し、その効果を高めるための関連事業を幅広く展開することで賑わい創出につなげました。</p> <p>学校連携としては、アーティスト・花房さくら氏と地元の邑久高校美術部が協働で、空間展示（インスタレーション）の部品制作を行うとともに、花房さくら氏と邑久高校美術部並びに牛窓中学校美術部とで、フリーワークショップの会場設営と必要な資材の制作を実施しました。加えて、市内小学校・中学校・高等学校へチラシ・ポスターの配布を行い、生徒や保護者にも特別展への来場も呼びかけました。</p> <p>また、猫をテーマにした美術館である「招き猫美術館」と連携し、館長の虫明修氏を講師として出張ワークショップ「招き猫の絵付け体験」を実施しました。平日開催とはいえ夏休み期間ともあって非常に人気で、40名の予約枠は一日で埋まりました。両館の来館者の相互交流を図り、近年招き猫美術館に来訪する台湾人を中心としたインバウンド需要の引き込みを図ったところ、両館をハシゴして訪ねて来られる方も見受けられました。</p> <p>近隣の複合施設「牛窓テレモーク」を会場として、地元牛窓の猫と地域社会をテーマとした映画『五香宮の猫』をナイトシアターとして上映しました。上映前には、撮影した映画監督・想田和弘氏（牛窓在住）と花房さくら氏とのトークイベントを開催し、話題作りを行うことで映画ファンや猫ファンも巻き込んだ幅広い層へのアプローチを図りました。夜間時間開催のイベントとすることで宿泊を促し、滞在時間の延長、地域消費の拡大を図ったところ、実際にこのイベントに合わせて牛窓に宿泊する人もあらわれました。</p> <p>これら多彩な取り組みを記録、保存、そして拡散していくためのツールとして、SNS等の情報発信や図録の制作に必要な写真撮影に取り組みました。画像は瀬戸内市内の観光地と本展のために制作された猫作品とがコラボしたもので、制作した図録は観光パンフレットとしても活用できるような内容となりました。</p>

事業内容（1）

事業名（個別にあれば記入）	瀬戸内市立美術館開館15周年記念特別展 花房さくら木彫展「猫、牛窓ニテ～星ヲモッテシュウゴウ！～」
参加アーティスト	花房さくら
事業の内容 ※別紙でも可	<p>一連の事業の中心となる展覧会として、作品発表やワークショップ、トークセッションなどを行いました。日本国内だけでなく台湾など海外でも人気の高い木彫作家の花房さくらの、愛らしい猫をテーマにした木彫作品約50点を、本展のために制作された観光案内猫や地域の景色をモチーフにした猫の新作をまじえて展示します。さらに岡山市内にある猫に特化した美術館、招き猫美術館とのコラボレーション事業も行います。愛嬌と躍動感ある愛らしい猫の姿と、懐かしくレトロな港町・牛窓の風情を楽しめる展示になりました。</p> <p>夏休み、大阪・関西万博、瀬戸内国際芸術祭の期間に合わせた猫好きをターゲットにした特別展のため、多数の集客がありました。また岡山県観光キャンペーン「おかやまハレいろキャンペーン」との連携、瀬戸内市で実施したインバウンド誘客も含めた幅広い集客と周遊を図る事業とも連携し、大きなプロモーション効果があったと想定されます。</p> <p>花房さくら氏は、若者を中心に熱烈なファンを持つ若手作家であり、館内も撮影&SNS掲載可能にしたことから、幅広い層の来館がありました</p>
開催期間	令和7年7月9日（水）～令和7年8月31日（日）
開催場所	瀬戸内市立美術館4階・3階展示室
入場者等	18,665人

事業内容（2）

事業名（個別にあれば記入）	花房さくら×岡山県立邑久高等学校美術部「星ノ赤チャン」制作
参加アーティスト	花房さくら
事業の内容 ※別紙でも可	<p>県内でも屈指の活動を誇る岡山県立邑久高等学校の美術部員が、花房さくら氏の指導を受けて作品の部品を一緒に制作しました。作品は、今回の展示の目玉となる空間展示「夜まで待てない」の部品「星ノ赤チャン」で、事前に星形にカットされた木材を、アクリル絵の具で地塗りを行い、さらに上塗りですっきりと鮮やかに彩色、ラメなどを用いて仕上げ装飾していく作業でした。星のモチーフは、花房さくら氏の代表作と牛窓を代表する景色のひとつムーンロードをかけあわせたもので、地域の学生たちの作る星々が、猫作品の周りを飾り、一連のインスタレーションを彩る大事なパーツとなりました。また制作風景はパネル化し館内に掲示しました。</p> <p>花房さくら氏と地域の学校生徒との触れ合いのなかで、アーティスト側は地域に愛着を持つことができ、展示内容については独自</p>

	の地域性を生むことにつながりました。また、制作にあたる学生は将来的に文化芸術関連に進む意思を持つ者が多く、現役作家と一緒に制作にあたり、さらに出来上がったものが作品の一部として実際に展示されるという経験は貴重なものになりました。
開催期間	令和7年6月21日（土）
開催場所	瀬戸内市立美術館3階研修室
入場者等	23人

事業内容（3）

事業名（個別にあれば記入）	花房さくら×岡山県立邑久高等学校・瀬戸内市立牛窓中学校美術部フリーワークショップ「星ニ願イヲ」の会場制作
参加アーティスト	花房さくら
事業の内容 ※別紙でも可	岡山県立邑久高等学校美術部と瀬戸内市立牛窓中学校の美術部を対象に、花房さくら氏と一緒に、フリーワークショップ「星ニ願イヲ」会場の造作のサポートと飾り付け作業を行い、合わせて「猫の図書館」の装飾も行いました。 「星ニ願イヲ」は、展示室の天井に網を張り、星形に切り抜いた紙にメッセージを書き込んで吊るしつけていくフリーのプログラムの会場です。また「猫の図書館」は、市内図書館と連携し、猫や海にまつわる書籍・絵本を選書してもらったものを飾り、会場内の一角で読めるようにしたものです。 この会場造作やパーツの作成を花房さくら氏と一緒に行いました。花房さくら氏と地域の学校生徒との触れ合いのなかで、アーティスト側は地域に愛着を持つことができ、展示内容については独自の地域性が生むことにつながりました。また、制作にあたる学生は将来的に文化芸術関連に進む意思を持つ者が多く、現役作家と一緒に制作にあたり、さらに出来上がったものが作品の一部として実際に展示されるという経験は貴重なものになりました。
開催期間	令和7年7月5日（土）
開催場所	瀬戸内市立美術館3階展示室
入場者等	29人

事業内容（4）

事業名（個別にあれば記入）	ワークショップ「招き猫絵付け体験」
参加アーティスト	虫明修（招き猫美術館館長） 花房さくら
事業の内容 ※別紙でも可	招き猫美術館（岡山市北区金山）と連携し、同館で実施しているプログラムである「招き猫絵付け体験」を、虫明修館長を講師として出張実施しました。参加者は、白い素焼きのベースに絵具と

	<p>筆で彩色を施すことで、自分だけのオリジナルの招き猫を作っていました。また花房さくら氏もゲスト参加され、参加者と一緒に作品の制作を行いました。</p> <p>展覧会鑑賞後にプログラムを体験することで、鑑賞で得た感動やひらめきを立体作品に落とし込むことが出来ることから、手軽に楽しめる美術体験を提供できました。また夏休み期間であったことから宿題需要からか予約が殺到しました。</p> <p>当館としては、猫をテーマにした近隣美術館との連携企画により、相互の交流を図ることが出来るとともに、来館者に対しても幅広く双方で情報発信することができました。特に、招き猫美術館では、現在、台湾や中国からの入館者が急増していることから、台湾で人気のある花房さくら氏、加えて瀬戸内国際芸術祭の影響があつてか、展覧会には海外の方の来館がありました。</p>
開催期間	令和7年8月5日（火）
開催場所	瀬戸内市立美術館3階研修室
入場者等	40人

事業内容（5）

事業名（個別にあれば記入）	<p>アーティスト・トーク 映画「五香宮の猫」の監督想田和弘氏×花房さくら氏</p> <p>ナイトシアター『五香宮の猫』in ウシマドテレモーク</p>
参加アーティスト	<p>花房さくら</p> <p>想田和弘（映画監督）</p>
事業の内容 ※別紙でも可	<p>猫の住む町・牛窓を取り上げたドキュメント映画『五香宮の猫』（2024年公開）の監督である想田和弘氏（牛窓在住）と花房さくら氏が、猫、作品制作、展覧会、牛窓、文化芸術など幅広い自由なテーマでトークセッションを行いました。会場は、美術館からも徒歩圏内の複合施設ウシマドテレモーク（旧牛窓病院跡）を活用しました。</p> <p>また、ウシマドテレモーク内にシアター設備を設けて、映画『五香宮の猫』の上映を実施しました。想田和弘監督の挨拶もあり、会場には美術館から花房さくら氏の作品を一部移設し、猫たちと一緒に映画を鑑賞できる特別な時間となりました。</p> <p>瀬戸内市が関わる施設であるウシマドテレモーク（旧牛窓病院跡地複合施設）を活用することでの賑わい創出。美術館だけにとどまらず、文化芸術の体験を周辺へ波及する効果。ナイトタイムプログラムのため、滞在時間の延長による飲食・宿泊等の需要増による地域消費額の増加につながりました。</p>
開催期間	7月21日（月・祝・海の日）17時頃～21時頃
開催場所	ウシマドテレモーク
入場者等	65人（アーティストトーク）、75人（ナイトシアター）

事業内容（6）

事業名（個別にあれば記入）	図録「瀬戸内市の猫旅」撮影事業
参加アーティスト	加賀雅俊（写真家） ふなっしー
事業の内容 ※別紙でも可	牛窓を中心に瀬戸内市の見どころや観光地と花房さくらが本展のために制作した新作を合わせた撮影を実施しました。納品された画像は、展覧会の展示パネル、SNSでの発信、図録等に活用されました。 特に展覧会の図録については、作品だけを掲載するという従来のものではなく、瀬戸内市内の観光地を花房さくら氏の猫作品が旅をするというテーマのものとして作成しました。 この画像の活用により、展覧会への来場をきっかけに、牛窓や瀬戸内市内への興味を持たせることができるとともに、それにとともなう滞在時間の延長と観光消費額の増大を促進する効果につながりました。さらに、撮影した画像を観光写真資料として、今後も継続して使用することもできるようになりました。
開催期間	令和7年6月13日（金）
開催場所	瀬戸内市内
入場者等	—

成果・効果

<p>事業全体の成果・効果</p> <p>※以下の観点も盛り込むこと</p> <p><観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力向上や発信 ・地域活性化 ・他地域への展開の期待 ・県民に対する文化芸術に触れる機会の提供 	<p>観光協会や地域団体と連携しながら誘客を図ることで、美術館を観光地である牛窓地域の玄関口と位置付けて、地域の魅力向上や発信窓口としての機能を盛り込み、周遊を促進することで大きな成果につながりました。展覧会をきっかけに地域は活性化しており、展示内容につながるコラボを実施した店舗（猫様ランチ、猫デザートプレート、ねこパフェなどの提供）は前年比130%ほど、地域でも前年比110%ほどの売上増であったと観光協会からの報告を聞いています。</p> <p>花房さくら氏は、インスタグラムなどに約12万人のフォロワーをもつインフルエンサーでもあり、その効果で若年層や家族連れなど従来の来館層とは違うところへ波及可能なアーティストです。そうした作家の展覧会や文化イベントを柱において、その関連事業について、より幅広い層に興味をもってもらえる内容に広げ、地域資源や人材を活用し、また学校連携や観光事業者との連携を図ることが出来る取り組みにすることで、従来とは違う客層に対して文化的なアプローチを仕掛けることが可能になります。</p> <p>このことで、他地域においても同様の事業モデルの横展開を期待することができます。</p> <p>また、美術館だけでなく、近隣の文化観光施設をイベント会場として利用することで、普段は足を運ばない層やアーティストのファン層を地域に周遊・滞在してもらえるようになりました。</p> <p>地元の学校と連携を図ることで、学校と地域連携の道筋を強化す</p>
---	--

	<p>るとともに、学生や全校生徒その家族も含めて展覧会を自分事にするのが期待できます。実際に生徒や保護者の姿を会場内で見ることがありました。</p> <p>牛窓を中心に瀬戸内市の見どころや観光地と花房さくらが本展のために制作した新作を合わせた撮影を実施しましたが、納品された画像について、展覧会の展示パネル、SNS での発信、図録等に活用しました。このようなアーティスト作品と地域の魅力発信がセットになった手法も周遊促進に効果的だと感じられました。</p>
<p>地域住民、文化芸術団体、教育・産業関係機関等と連携・協働した取組</p>	<p>本展は、岡山県が実施し瀬戸内市が参画する観光キャンペーン「おかやまハレいろキャンペーン 2025」と連携するとともに、瀬戸内市文化観光課の周遊事業「猫 AR 事業」（瀬戸内市観光協会が実施団体に採択）とも連携しました。瀬戸内市観光協会が主導して、花房さくら氏とコラボした事業の展開や宿泊プランの造成、ランチマップの作成など周遊促進の取組を積極的に実施しました。</p> <p>また市と地域事業者が運営する複合施設であるウシマドテレモークをイベントのため施設利用することで、これまで美術館と接点が少なかった事業者とマッチングすることにつながり、そこから地域の活性化にも寄与することができました。</p> <p>またワークショップの充実として、近隣で猫をテーマに運営している招き猫美術館のプログラムを出張実施してもらうことで、他館との連携を図ると共に、相互の来館者への情報発信を行うことでの相乗効果を狙った取組も実施できました。</p> <p>岡山県立邑久高等学校や瀬戸内市立牛窓中学校など、地域の学校と連携し、本展のためのインスタレーション制作のために関わることや、展示空間の造作やアーティストとの関わりの場を設けることで、アーティストと地域の学校と結びつける美術館としての位置付けをつくりだすことができました。</p>
<p>子どもや若者を対象とした文化芸術に触れる機会を提供するための取組 （対話型鑑賞、ワークショップなど）</p>	<p>子どもや若者を対象とした文化芸術に触れる機会を提供する取組としては以下のようなものがあげられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な動物である猫をテーマにしていることでの誘客促進策 ・メディアへの露出を図る広告 ・市内への展覧会チラシの全戸配布 ・展示の撮影（SNS への掲載）可能ということ ・時間にとらわれない参加型の展示があること ・多種多様なワークショップやイベントを用意したこと ・アーティストがインスタグラムの発信を行うこと ・地域の学生に展示等に参画してもらっていること ・岡山県観光キャンペーンの周遊企画と連動していること
<p>来場者の意見等</p>	<p><来館者アンケートより></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに孫たちとまた来るつもりです（女性 60 歳以上） ・写真撮影ができるのも嬉しいポイントでした（男性 30 代） ・亡くなったウチの子を思い出して涙が出ました（女性 50 代） ・触れないけれど触っているような写真がとれてすてきでした（不明 40 代） ・今後も、若手芸術家にチャンスをあげてください（男性 60 歳以上） ・星野さんの瀬戸内市ぶらり旅もかわいくて瀬戸内市が素敵など

	<p>ころなんだなあと知ることが出来ました！！（女性 40 代）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねこの作品が大変よかった（男性 15 歳未満） ・高校生の参加があったこと良いことだなあと思った。空間展示が良かった（女性 60 歳以上） ・木彫りの作品に合わせて牛窓各地で撮影された写真パネルがとてもかわいくて良かったです（男性 60 歳以上） ・ニャンコやスターもちねこや一つ一つのこだわりがよかった（女性 15 歳未満） ・このためだけの京都から来て夕べはコラボの西大寺グランドホテルさんに宿泊しました（女性 50 代） ・写真でも可愛かったです、実物はもっと可愛かったです。一匹一匹の表情が違って、生き生きとしていました（女性 20 代） ・写真撮影 OK が嬉しかった（女性 16～19 歳） ・猫を飼っていて、楽しく拝見しました。いろいろな表情の猫たちを見て心が癒されました（男性 60 歳以上） ・牛窓のあちこちに出かけて写真を撮っているのを見て、行ってみたいと思いました。良い企画だと思います！（女性 50 代） ・夏休みで 5 才と 3 才の娘と来館しました。猫がかわいくて娘たちも大喜びでした。願いごとを書く、スタンプラリーと参加できる内容も良く、楽しませてもらいました（女性 30 代） ・とても可愛い猫たちに会えて良かったです！（男性 20 代）
--	---

課題・今後の方向性

<p>課題・改善点</p>	<p>特別展を軸とした多面的な取り組みにより交流人口の拡大が図られ、十分な成果をあげることができましたが、いくつかの課題も見受けられました。</p> <p>まず、学校連携やワークショップなど参加型事業が多岐にわたった分、事前調整や当日の運営体制が複雑化し、担当者の負担が大きくなった点が挙げられます。特に当館は少ない人員体制で稼働しているため、繁忙期といえども各々の負担は大きかったと思われます。</p> <p>広報は、新聞への広告掲載、そしてチラシ配布や SNS 発信、各種メディアからの取材を受けて大きく露出できていましたが、インバウンドを含む幅広い層へのリーチには限界があり、特に外国語での発信強化は今後の課題となります。</p> <p>また、イベントの人気に対して予約枠が早期に埋まるなど、需要に見合った受入体制の検討も必要だと感じられました。</p> <p>ナイトシアターでは宿泊促進の効果が見られましたが、イベントに合わせた地域全体で回遊を促す仕組みづくりは十分とは言えないところがありました。</p> <p>今後は関係機関との連携強化、デジタル広報の多言語化、来場者データの収集・分析による事業の最適化、滞在型観光につながる導線設計などを進め、より持続的な地域活性化につなげていくことが求められます。</p>
---------------	---

今後の方向性	<p>今回の事業を通して得られた成果と課題を踏まえると、今後は文化事業を地域活性化につなげるためのより戦略的な展開が求められると考えられます。</p> <p>まず、学校との協働は地域教育資源として高い価値を持つため、単発的な取り組みに終わらせず、年間を通じた継続的な連携体制を構築することが重要です。作品制作やワークショップに加えて、企画段階から高校生・中学生が関われる仕組みを整えることで、若年層の地域参画とアート教育の深化が期待できます。</p> <p>次に、広報面では SNS の多言語化やインバウンド向けの特設ページの開設など、より戦略的な情報発信が必要ではないかと考えられます。特にインバウンド来訪が見込める地域に対しては、現地メディアや旅行会社との連携も視野に入れて準備をすることも必要ではないかと思われます。</p> <p>また、人気イベントの予約が即日満席となるなど需要が高い分、受入体制の拡充やオンライン事前予約システムの導入など、参加者がアクセスしやすい仕組みづくりが求められます。</p> <p>さらに、ナイトシアターのような宿泊促進型のイベントは、地域消費の増加につながるため、今後は市内の観光施設・飲食店・宿泊事業者との協働による「アート×観光」の回遊プログラムを整備し、滞在時間の延長を図ることが重要です。</p> <p>これらを総合的に進めることで、美術館を中心とした文化振興と地域経済の活性化を同時に推進するモデル形成を進めていくという方向性を見出すことができました。</p>
---------------	--